

日本声楽発声学会

第117回例会

令和7年（2025年）11月29日（土）

9:55～16:35（受付9:30より）

東京藝術大学音楽学部

大講義室（5-109）・第6ホール

（JR上野駅公園口より徒歩10分）



上のQRコードを読み取り例会アンケートにご協力ください

（お願い）

- ①携帯電話等音の出るものは電源をお切りください。
- ②録音、録画、写真撮影は固くお断りいたします。（本学会では記録用として録音録画をしますがそれ以外は個人情報と著作権保護のため厳禁といたします。違反の場合は機材等を学会でお預かりすることがあります。）
- ③感染症予防に関しては、ご自身でご判断の上ご入場ください。

日本声楽発声学会第 117 回例会プログラム

総合司会：副会長 池田京子

開会挨拶 9:55~10:00

会長 佐々木正利

A. 研究発表 10:00~11:50 (5-109 大講義室) 司会：副会長兼事務局長 齊藤祐

1) 10:00~10:25

座長：理事 田中昌司

発表者：齊田晴仁 Saida, Haruhito (さいだ耳鼻咽喉科クリニック、ヴォイステック音声研究所)

齊田正子 Saida, Masako (ヴォイステック音声研究所、日本オペラ振興会藤原歌劇団)

発表題目：日本の近代音楽黎明期の日本歌曲研究 山田耕筰の肉声の音響分析から声楽発声指導を検討する“からたちの花”

概要：“赤とんぼ”、“この道”、“からたちの花”など誰もが知る懐かしい名曲の数々を作出した山田耕筰は、日本の近代音楽黎明期を代表する作曲家である。各音楽大学で卒業論文や修士論文も多く、楽譜や文献的な考案、執筆者自らの歌唱経験によるものなど声楽研究に関する文献が多い。今回、本学会の発展のため声楽発声を考える上で重要な音声科学的な見地から彼の考える声楽発声指導について検討した。

10:25~10:30 質疑応答

2) 10:35~11:00

座長：理事 池田京子

発表者：森幹男 Mori, Mikio (福井大学工学部 情報・メディア工学講座 准教授、口笛奏者、博士(工学)、放送大学福井学習センター対面授業講師)

梅村憲子 Umemura, Noriko (福井大学教育学部特命教授 声楽、ソプラノ歌手、放送大学福井学習センター対面授業講師)

発表題目：「頭の後ろを意識して声を出す」発声指導の効果について

概要：声楽発声指導において、「頭の後ろへ息を回す」「うなじに響かせる」などの表現が用いられるものの、この後頭部や頸部の後ろの響きを意識した発声(以降、「後ろを意識して発声」と表記する)については、その効果について不明な点も多い。そこで、本研究では歌声を複数のマイクロホンで同時収録し、それらの音圧比の変化などの情報から発声指導による効果を検証した結果について報告する。また、前回発表した「視覚情報による母音の明瞭性の変化」で新たに得られた知見についても報告したい。そこで、発表時間内に聴取実験(簡単なアンケートに答えていただく)を行うことをご許可いただきたい。

11:00~11:05 質疑応答

B. 学会サロン 11:10 ~11:40 (5-109 大講義室)

司会：会長 佐々木正利

諸連絡 11:40~11:50

事務局次長：森井佳子

事務局主査：佐々木徹

昼食休憩 11:50~13:00

C. 特別講演 13:00~15:00 (5-109 大講義室)

司会：理事 渡辺修身

講師：中橋健太郎左衛門 Nakahashi, Kentarouzaemon

演題：日本オペラ界の未来について～裾野を広げる為に～

概要：今年 2025 年は「クラシック音楽のワールドカップ」ショパンコンクールが開催されました。コンクールそのものの功罪や審査についての賛否両論は常に話題となります。世界的にピアニストのレベルを上げた事は間違いないと考える事が出来ます。オペラに親しみ、お世話になった私ですが、これからのお音楽界や若い歌手たちに役に立てる事は何か、というテーマでお話が出来れば幸いです。

先に結論を簡単に、、、「若者よ、オペラに出よう、歌おう、弾こう、創ろう」

経歴：大阪府出身。桐朋学園大学音楽学部卒業。新国立劇場において 2011 年までプロンプター、副指揮など音楽スタッフとして契約。これまでに各地で、「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」、「魔笛」、「チェネレントラ」、「ランスへの旅」、「カルメン」、「リータ」、「ルチア」、「椿姫」、「リゴレット」、「ファルスタッフ」、「タンホイザー」、「ローエングリン」、「ラインの黄金」、「ヘンゼルとグレーテル」、「ラ・ボエーム」、「蝶々夫人」、「ジャンニ・スキッキ」、「つばめ」、「トゥーランドット」、「ナクソス島のアリアドネ」、「アラベッラ」、など幅広くオペラ全幕を指揮。2014 年 10 月、R. シュトラウス「アラベッラ」全曲舞台上演にて、神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指揮。2020 年 11 月、栃木県足利市のプロフェッショナルオーケストラ「足利カンマーオーケスター」第 16 回定期演奏会に招聘され指揮。又、藤原歌劇団に於いては下記の公演を指揮した。2018 年～2025 年、メノッティ作曲「助けて、助けて、宇宙人がやって来た！」（演出 岩田達示）。2021 年 11 月「ヘンゼルとグレーテル」（演出 小澤慎吾）。ピアノ奏者としても、びわ湖ホール主催マスタークラスから招聘されるなど活動。2017 年から 2024 年まで公益財団法人日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師を務める。



D. 現役声楽家の演奏とお話 15:20~16:30 (第6ホール) 司会: 理事 佐橋美起

講師: 高橋薰子 Sop. Takahashi, Nobuko 服部容子 Pf. Hattori, Youko



～演奏曲目～

・びいでびいで	・夏の宵月	・うぬぼれ鏡	平井康三郎
・悲しくなったときは	・むこうむこう	・髪	中田喜直
・風をみたひと	・竹とんぼに	・お伽噺	木下牧子
・《La Bohème》	Quando me'n vo'		G. Puccini
・La promessa	・La fioraia fiorentina		
・La chanson du Bébé			G. Rossini
・A Chloris	・Si mes vers avaient des ailes		R. Hahn
・《Faust》	Air des bijoux		C. Gounod

Sop. 高橋薰子 国立音楽大学卒業。同大学院オペラ科修了。文化庁オペラ研修所第七期生修了。'90 イタリア声楽コンコルソ・シエナ大賞受賞。没後 200 年記念国際モーツアルト声楽コンクールでアンナ・ゴットリープ賞を受賞。国内においては、同年、藤原歌劇団公演「ドン・ジョヴァンニ」のツェルリーナ役で本格的デビューを飾った。その後第2回五島記念文化賞オペラ新人賞を受賞。これを受け'91より'93までイタリア・ミラノに留学。各地で多数のコンサートに出演。帰国後、藤原歌劇団公演「ルチア」のタイトルロールを急遽代役で歌い絶賛を博したほか、「コシ・ファン・トゥッテ」「フィガロの結婚」「愛の妙薬」「セビリアの理髪師」「魔笛」「仮面舞踏会」「魔弾の射手」「電話」「奥様女中」「人間の声」「イル・カンピエッロ」「ロメオとジュリエット」「ラ・チェネレントラ」「ランスへの旅」「ラ・ボエーム」「リゴレット」「泥棒かさぎ」「タンクレーディ」「夢遊病の女」「カプレーティ家とモンテッキ家」等のオペラ、リサイタル、また「第九」や宗教曲など主要オーケストラとの共演も多い。新国立劇場へは「魔笛」「ドン・ジョヴァンニ」「セビリアの理髪師」、「ヘンゼルとグレーテル」「沈黙」「鹿鳴館」「チェネレントラ」と続けて出演しすべての演目に高い評価を得る。'09 びわ湖ホール・神奈川県民ホール・二期会・日本オペラ団体連盟共催公演「トゥーランドット」においてリュウ役を歌い注目を集めなど着実にレパートリーを広げている。オペラの他、リサイタル、第九や宗教曲などオーケストラとの共演も多い。ジロー・オペラ新人賞、村松賞、モービル音楽賞洋楽部門奨励賞、よんでもん芸術文化奨励賞、ホテルオーケラ音楽賞受賞。藤原歌劇団団員。国立音楽大学客員教授、東京藝術大学講師。

Pf. 服部容子 桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒業。1996 年度文化庁在外派遣研修員としてニューヨークに留学。国内外のオペラプロダクションにコレベティトゥア、副指揮、プロンプターとして、またモーツアルトなどのチェンバリストとして参加し数多くの公演の成功に貢献している。またリサイタル等で多くの歌手と共に演するピアニストとしても活躍。最近は指揮者としても活動する。東京音楽大学専任講師。東京藝術大学大学院、お茶の水女子大ならびに洗足学園大学非常勤講師。日本声楽家協会理事。日本ドイツリート協会広報役員。



質疑応答 16:15~16:30

閉会挨拶 16:30~16:35 副会長 池田京子

表紙の例会アンケート QR コードを読み取り、アンケートにご協力ください。